



〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地  
TEL 076-281-8300(代) FAX 076-281-8319  
E-mail: office@ishikawa-nu.ac.jp  
http://www.ishikawa-nu.ac.jp

公共の交通機関で

- ◎JR高松駅から市営バスに乗り「看護大学・看護大学前」下車／約5分
  - ◎JR金沢駅からIRいしかわ鉄道でJR七尾線へ、高松駅下車／約30分
  - ◎JR七尾駅から七尾線に乗り高松駅下車／約50分
- 車で
- ◎金沢森本ICから のと里山海道へ、県立看護大IC下車／約25分
  - ◎小松空港から北陸自動車道小松ICへ、  
金沢森本ICで降り、のと里山海道へ、県立看護大IC下車／約1時間
  - ◎のと里山空港から のと里山海道へ、県立看護大IC下車／約1時間



石川県公立大学法人

石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

看護学部看護学科  
大学院看護学研究科

大学案内 2018



# 石川県立看護大学学歌

天沼 裕子

一. この手で守り抜きたい 大切な命  
 続け 先人たちに 看護の道を  
 何に癒されるのだろう 傷ついた心は  
 澄んだ瞳で見つめて 手を差し伸べて  
 青空の果ての果て 伝われ熱き祈り  
 人々が慈愛に包まれるまで

二. ほほを伝う涙は 痛みを溶かす力  
 さわめよ 学友に囲まれ 看護の道を  
 声なき叫びに 耳を傾けて  
 あるがままに受け止めて 寄り添って  
 心を無限大に広げ 奮い立たせよ  
 人々が祝福に包まれるまで  
 地球の子守唄 歌え心安らかに  
 人々が光に包まれるまで



## Contents

学長メッセージ	02
学部	03
教育カリキュラム	05
看護学実習	07
キャンパスカレンダー	09
Voice	11
学生支援	13
進路支援体制と実績	14
施設紹介	15
学びのフィールド	17
大学院	19
研究科長メッセージ	20
大学院の構成	21
博士前期課程カリキュラム	23
博士後期課程カリキュラム	25
研究指導教員と研究テーマ	26
大学紹介	27
入試情報	29

## アドミッション・ポリシー

看護とは、「様々な健康レベルの人々が、  
 その人らしく生活できるよう援助する仕事」です。  
 そのためには、専門的な知識・技術はもちろん、  
 命を大切にする心や人間としての豊かさが求められます。  
 本学では以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を  
 広く求めます。

### 看護学部看護学科

1. 大学で学ぶ上で必要とされる基礎学力を身につけている。
2. 人間や生命に関心をもち、保健・医療・福祉分野で活躍・貢献したいという目的意識を持っている。
3. 周囲の人と協力して物事を進めることができる。
4. 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを表現できる。
5. 自己学習・自己啓発を継続する意欲がある。

### 大学院看護学研究科

#### 博士前期課程

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人。
2. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人。
3. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人。
4. 専門看護師コース志望者は、対応する分野の実務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人。

#### 博士後期課程

1. 実務経験を有し、看護学への探求心を有する人。
2. 看護学研究に対する高い動機と学びに必要な基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人。
3. 看護学や看護実践の発展に寄与する意志を有する人。
4. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人。

## ディプロマ・ポリシー

### 看護学部看護学科

本学は、教育理念を基に本学の教育課程に沿って研鑽に努め、指定する卒業単位を修得することで、下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成します。

1. 看護の基盤となる豊かな人間性や倫理観と教養を身につけている。
2. 看護職として専門分野における学問内容の知識・技術を修得している。
3. 人間の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、的確な判断ができる。
4. 人々の健康維持と増進、予防、また健康障害からの回復過程等、全ての健康段階を連続的に捉え、生活に根ざした支援の必要性を理解できる。
5. リーダーシップを身につけ、自ら多職種と連携・協働することができる。
6. 国際化及び社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

### 大学院看護学研究科

#### 博士前期課程

所定の単位を修得し、次のような研究能力や看護実践能力を有する者に修士(看護学)の学位を授与する。

1. 看護学に寄与する修士論文の作成を通して、学際的で深い科学的知識を基にした体系的な研究方法を修得している。
2. 専門看護師コースでは、1に加えて特定の看護分野における高度な知識と技術を修得している。さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身につけている。

#### 博士後期課程

所定の単位を修得し、看護学や看護実践の発展に向け、学位論文において新しい知見を産出し、自立した研究活動に必要な能力を有する者に博士(看護学)の学位を授与する。



## Message

設立から今年で17年を迎えた本学は、石川県下に多くの看護職を送り出してまいりました。

本学では明るく開放的な校風と自由な雰囲気のもとに、一人ひとりの個性を伸ばす教育を大切にしています。学生たちは看護専門職に必要な知識や技術を、熱意あふれる看護教員から学習します。同時に、知識や技術の根拠を大事にし、論理的な思考を促す健康科学担当の教員や、対人援助における対象理解に必要な知識を教える人間科学担当の教員から、幅広く奥深い内容を学びます。そして教職員の学生に対する熱い思いが、専門職としての自覚を高め、病む人、困難な状況にある人への温かい思いやりと共感を育んでいます。

さらに、地元かほく市をキャンパスに見立て、地域と連携したさまざまな活動や研究を行う一方で、米国ワシントン大学との交流や、南米の国々のJICA事業の支援を行うなど、学生が個性的で貴重な経験を積み重ねる機会も多く設けています。

4年間の学びを通じ、学生は、真に喜ばれる看護を提供できる職業人へと成長し、将来的なリーダーや看護学の発展に寄与できる人材となるものと考えております。現在、日本では、大学で看護を学んだ専門職への期待が高まる一方で、ぜひ本学に関心を抱き、共に学ぼうと考えていただければ幸いです。

### 学長 石垣 和子

石川県生まれ  
 東京大学医学部保健学科卒業  
 医学博士

市町村の保健所に勤務後、東京大学助教授(医学部健康科学・看護学科)、浜松医科大学教授(医学部看護学科)、千葉大学教授(看護学部)、看護学部長、千葉県立保健医療大学教授(健康科学部)、健康科学学部長を経て平成23年度より現職。

## 学部

Under graduate

高い知識・技術と  
看護の心を身に付けた  
医療人へ

本学では4年間の学びを通じ、  
高い知識・技術とその基盤となる看護の心を身に付けた  
「優れた医療人」を育みます。

卒業後は医療現場だけでなく、高齢者・障害者の福祉施設、  
自治体や学校、企業など、多くの活躍の場が待っています。  
また、大学院への進学、世界中の医療を必要とする現場での  
活躍の道も開けます。

【進学】  
大学院  
助産師養成課程  
養護教諭特別別科  
など



## Educational Philosophy

## 教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも  
専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域  
で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者  
の育成を目指します。

## 教育目標

- ① 豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成
- ② 看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成
- ③ 調整・管理能力を有する人材の育成
- ④ 国際社会で活躍できる人材の育成
- ⑤ 将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成



## 取得可能な資格

## 看護師免許

保健・医療・福祉チームの一員として、専門的な知識と技術に基づいて、あらゆる場面で最適な医療環境とケアを提供する専門職です。

## 保健師免許

地域の人々の健康相談や健康教育、健康診査などの地域保健活動にかかわり、地域医療における重要な役割を担います。

## 養護教諭2種免許

学校で児童・生徒の健康管理や保健指導を担当する教員で、身体だけでなく、心の問題にも目を向ける豊かな人間性が求められています。この免許の申請には、本学で指定する科目の修得と保健師免許の取得が必要です。

## 将来の活躍の場

- 病院
- 診療所
- 介護老人保健施設
- 介護老人福祉施設
- 訪問看護ステーション
- 地域包括支援センター
- 保健所
- 市町村保健センター
- 企業の保健管理室
- 大学などの教育・研究機関
- 学校の保健室

# 教育カリキュラム

看護学を学ぶための基礎となる「人間科学領域」と看護学の専門教育である「看護専門領域」を体系的に統合した効率的なカリキュラムを編成しています。



## カリキュラム・ポリシー

本学では、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げる知識・技術などを修得できるように、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を体系的に編成しています。教育内容、教育方法、教育評価について以下のように定めています。

### ＜教育内容＞

学生が大学での学修に適応するための科目を初年次に配置する。加えて、人間科学・健康科学・看護学の科目間の連携を図り、それらを統合して学べるように科目を配置する。

看護専門領域に「健康・疾病・障害の理解」「看護の基本」「看護援助の方法」「看護の実践」「看護の発展」の科目を配置する。また、人間の成長・発達、健康の維持増進から終末に至る健康問題を科学的に評価し、生活・療養の場に応じた看護の必要性を学べるように設定する。

さらに、様々な状況に対応できる能力、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力、将来を切り開いていく能力を統合・発展させるための科目を段階的に学べるように設定する。

### ＜教育方法＞

幅広く統合的に看護を学ぶことができるよう、積極的に人々の生活の場に出向いたり、アクティブ・ラーニング、異学年交流等を活用した講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。

個々の学習深度や能力に応じた指導を行うため、個別学習やレポート課題を課し、フィードバックを行う。

学生のより積極的な学習ニーズに応えるため、外部の客観的評価試験や外部の開講科目(放送大学、シテカレッジ等)を活用する。

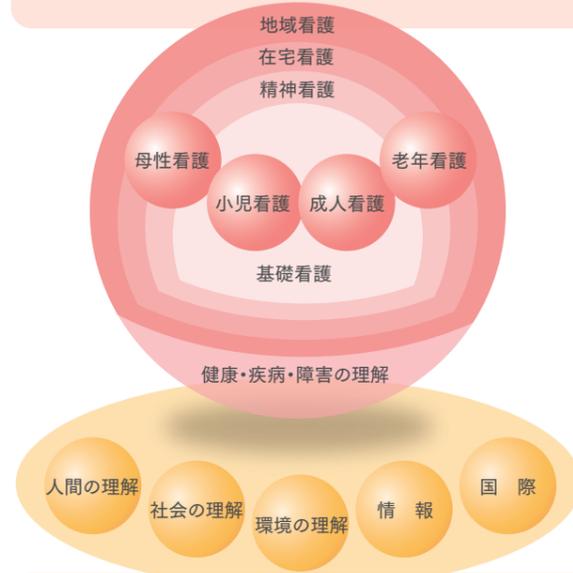
学年進行に沿って、学修が統合的に積み重ねることができるように履修指導を行う。

### ＜教育評価＞

各科目の学習目標の達成度を評価し、その基準は授業計画に示す。加えて、本学の履修規程・学則に基づいて総合的に評価する。

### 看護専門領域

看護に必要な専門的な理論と知識、技術を系統的・段階的に学び、看護学の発展を目指して成長を遂げることができるように、「健康・疾病・障害の理解」「看護の基本」「看護援助の方法」「看護の実践」「看護の発展」の5つの分野から構成しています。



### 人間科学領域

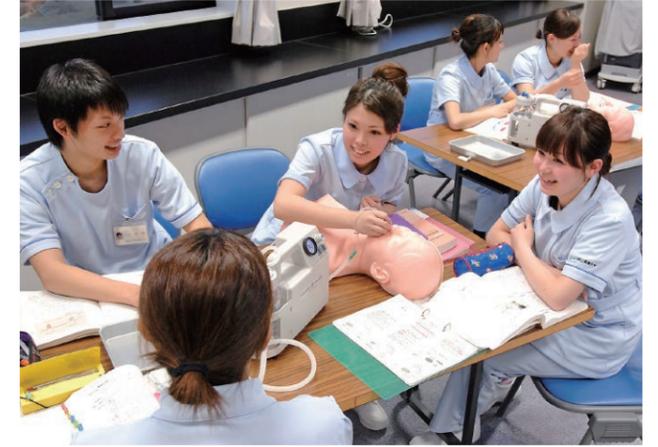
看護対象者や人々が生活する社会・環境への理解を深めるとともに、高度情報社会や国際社会に対応し、活躍できる能力の修得と人間形成を目指し、看護学を学ぶ基盤を築きます。

看護専門領域	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
<b>看護の発展</b> さまざまな看護専門分野の中から、自分の目的や興味に従って学びます。また、各自が決めたテーマに沿って、担当教員の指導を受けながら論文にまとめる「卒業研究」も行います。	○国際看護論 ○国際看護演習 ○ヒューマンヘルスケア	○ヒューマンヘルスケア	●研究方法論 ○ヒューマンヘルスケア	○看護教育学 ●看護管理学 ○子供の発達支援論 ○思春期健康論 ○感染看護学 ○緩和ケア論 ○認知症高齢者ケア論 ○地域精神保健看護論 ●コミュニティ政策形成論 ○災害看護論 ○クリティカルケア看護論 ●卒業研究 ○ヒューマンヘルスケア
<b>看護の実践</b> これまで学んできた看護専門領域の学習を基礎に、さまざまな健康レベルや、ライフサイクル各期の人々の健康問題を解決するために必要な看護を実践する能力を育成します。			◆母性看護学実習 ◆小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ ◆成人看護学実習A・B ◆老年看護学実習 ◆精神看護学実習	◆在宅看護学実習 ◆地域看護学実習 ◆統合実習A・B
<b>看護援助の方法</b> ライフサイクル各期における対象特性と健康課題、看護問題に対応する看護方法と、看護の場の機能に応じた看護方法を融和して展開する能力を育成します。		●母性看護学概論 ●小児看護学概論 ●成人看護学概論 ●成人看護方法論Ⅰ ●老年看護学概論 ●老年看護方法論Ⅰ ●精神看護学概論 ●精神看護方法論Ⅰ ●在宅看護学概論 ●地域看護学概論 ●地域看護学概論 ●地域看護学概論 ●家族看護論 ●地域ケアシステム論	●母性看護方法論Ⅰ・Ⅱ ●小児看護方法論 ●成人看護方法論Ⅱ ●老年看護方法論Ⅱ ●精神看護方法論Ⅱ ●在宅看護方法論Ⅰ・Ⅱ ●地域看護方法論Ⅰ・Ⅱ	
<b>看護の基本</b> 看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術を学び、看護専門職としての基本的な能力と態度を養います。	●看護学概論 ●基礎看護方法論Ⅰ・Ⅱ ◆基礎看護学実習Ⅰ	●基礎看護方法論Ⅲ・Ⅳ ◆基礎看護学実習Ⅱ ●フィジカルアセスメント		
<b>健康・疾病・障害の理解</b> 人間の生命現象、健康の保持と増進、疾病・障害の発症と回復の仕組みを学びます。	●人間機能学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ●人間病態学Ⅰ・Ⅱ ●疾病・障害論ⅡA	●人間病態学Ⅲ ●疾病・障害論ⅠA・ⅠB・ⅠIB・ⅠIC・ⅠⅢ・ⅠⅣ ○精神保健論 ●公衆衛生学 ●臨床薬理学 ●臨床栄養学	○健康環境論 ○生理人類学 ●疫学	

人間科学領域	●必修 ○選択 ◆看護学実習(必修)			
<b>人間の理解</b> 人間の存在意義や本質を洞察し、コミュニケーションの知識・技法を修得することを通して、他者の気持ちに共感できる人間性を育みます。	○哲学 ●心理学 ○石川伝統文化論 ●健康体力科学 ○フィジカルフィットネス ●フィールド実習	●生命倫理学 ○表現学	○臨床心理学	
<b>社会の理解</b> 社会の仕組み、人と社会環境とのかかわりについて理解を深め、社会科学および文化人類学的な視点で保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題を考察する能力を養います。	○法と社会 ●社会福祉論 ○家族社会学 ○医療人類学	○教育学 ●保健医療福祉論	●医療経済学	
<b>環境の理解</b> 人間工学や地球環境に関する科目です。人々の生活と自然環境とのかかわりや人間と環境との共生について理解を深めるとともに、自然科学的思考の基盤を養います。	○環境物理学 ●人間工学 ○人類生物学 ○人体生化学			
<b>情報</b> 情報通信機器やマルチメディアの発達に伴う高度情報社会に対応できる知識・技術と保健・医療・看護分野のデータの統計情報処理に必要な能力を養います。	○情報リテラシー ●保健統計学	○情報処理学		
<b>国際</b> 英語、ドイツ語、中国語、ロシア語を学ぶことができます。国際的な視野から健康問題や看護問題をとらえ、国際社会でも活躍できる思考力と語学力を養います。	●英語Ⅰ ●英語Ⅱ ○ドイツ語 ○中国語 ○ロシア語	●英語Ⅲ ○英語Ⅳ ○英会話	○英語講読	

# 看護学実習

講義・演習を通じて看護に必要な理論と知識、技術を系統的・段階的に学びます。この学びの進捗状況に応じて実習を段階的に進めることで、実践能力を高めます。



## 実践能力を高める V 段階の実習

### 1 年次

I. 前期にフィールド実習を行います。フィールド実習は学生が自らのテーマを設定し、さまざまな健康レベルの人々が生活している場に出向き、共に活動する体験を通じて社会的な視野を広げ、人間への理解を深めます。

II. 後期に基礎看護学実習 I を実践します。日常生活におけるケアリングについて理解を深めるとともに、看護職者としての倫理観と態度を養います。

### 2 年次

III. 前期に病院見学を実施し、夏休みが終わるとすぐに基礎看護学実習 II がはじまります。受け持った患者の特性や看護の必要性を判断し、具体的な計画の立案から援助の実践までを行います。

### 3 年次

IV. ライフサイクル各期の患者の特徴や健康問題を理解し、援助を実践する能力を養います。また、関連職種や他職種・関連機関との連携を通じて、看護職者の役割と機能、チーム医療について理解を深めます。

### 4 年次

V. 在宅療養者とその家族、地域住民を対象に、保健所などで実習を行い、関連分野の人々との連携・協働を学びます。前年の実習を踏まえ、退院調整や外来機能の理解、社会復帰支援や再発予防の看護能力を養います。



### [Voice]

II 段階：基礎看護学実習 I

2年生 向井 美結



慢性期病院で患者さんとのコミュニケーションや入浴、排泄などのケアを見学しました。患者さんの表情や、もとの生活環境から、患者さんの立場となって、そのときに必要としていることを読み取ることができたと実感しました。また、個々に最適な看護を行うには、患者さんにとって必要な看護を常に考えることが大切だと学びました。そのためにより学びを深め、知識や技術、経験を得る必要性を感じた実習でした。

### [Voice]

III 段階：基礎看護学実習 II

3年生 泉屋 昂平



初めて1人の患者さんを受け持ち、情報収集しながら必要なケアを考え実施しました。実習を通じて、私は自分の知識不足を痛感しました。看護師からの問いかけや患者さんの悩みに応えることができず、とても情けない思いをしたからです。話を聞くことは誰にでもできますが、私たちは深い知識を身につけ、根拠ある答えをもって患者さんと向き合う必要があります。この学びを生かして、今後の実習に向かっていきたいと思っています。

### [Voice]

IV 段階：IV 段階実習

4年生 与畑 拓哉



実習では、患者さんとの関わり方から疾病の理解・看護まで、講義で学ぶ以上の内容を体験し、知識を深めることができました。また、今までの学びを深め、実践する良い機会でした。最初は、緊張や戸惑いから積極的に取り組むことができなかったのですが、実習を進めていくうちに看護師の業務や役割について学ぶことができたと感じています。次回の実習では、この学びを発展させ、確実に自分の力となるようにしたいです。

### [Voice]

V 段階：V 段階実習

平成28年度卒業生 高木 明日香



V 段階実習では、これまでの講義や実習を統合し、疾患を持つ人だけでなく、様々な健康レベルの人、その家族と接します。実習を通して、対象者を患者ではなく生活者として捉え、その人らしく生きることができるよう援助していくことが大切だと学びました。対象者の生活状況や望みに合わせて援助を行うため、病院とはまた違う視点で看護を行うことができ、自分の看護への思いが深まり、その楽しさを感じるようになりました。